

ぐるぐるつくる大学セミナー・ハウス 主催
樋口裕康 × 齊藤祐子
W 講演会

第一部 樋口裕康 「外へ」

面影

あふれる緑

森へのあこがれ

幻の風景

好奇心

ブレーキをかける

網の目

大常識

大地は万人のもの

私は地球だ

身体は最も身近な自然

ふところと手

どんでんがえし

言葉は常に大地から立ちのぼる

未来は地（過去）の中にある

六感

描く 描く時間

五感

とにもかくにも先ず一步、外へ

Ars Longa, Vita Brevis

第二部 樋口裕康 × 齊藤祐子

「大学セミナー・ハウス、森と村の60年」

1963年、吉阪隆正と飯田宗一郎が夢見た新しい村と森、60年の物語から〈不連続統一体〉実践の現場を辿る。

第一部：14:00～16:00（13:00開場）会場：講堂（定員150名）

第二部：19:30～21:00（18:45開場）会場：本館・多目的ホール（定員150名）

場所：大学セミナーハウス（八王子市下柚木1987-1）

参加費（各部）：[会場] 一般¥2,000 学生¥1,500 [オンライン配信] ¥1,000

宿泊：要問合せ（ドミトリー／限定数）

共催：象設計集団

詳細・チケット取扱は、右QRコードからご確認ください。



2023
11/18
(Sat)

第一部「外へ」：樋口裕康

□幻の風景・面影 □トキは場所にとどまっている □身体は最も身近な自然である □私は地球だ □ヒト以前からいきものが持っている五感、六感（心）、、、、∞ □ヒトが移動を始めてから7万年 □森へのあこがれ □あふれる緑 □美しい空、おいしい空気、水。遊びまわる子供達 □手の平に無限をのせ □好奇心、冒険、探検、妄想、矛盾、大常識、どんでんがえし □ブレーキをかける。効率主義：合理主義：スピード □大いなる制約のもと、大いなる自由に向かう □ピラミッドから網の目へ □人工土地、大地は万人のもの □ふところと手 □Ars Longa, Vita Brevis □地にもぐる。未来は地の中（過去）にある □遠野物語 □言葉（建築）は常に大地から立ちのぼる。土地に根付いている物語には、抽象化されていない、生きている時間が息づいている。 □描く。手・身体全体が連動する。描く時間。

□とにもかくにも先ず一步、外へ。

第二部「大学セミナー・ハウス、森と村の60年」：樋口裕康 × 齊藤祐子

多摩丘陵の自然の中、桑畑と茅の丘に研修施設の設計を始めたのが、今から60年を遡る1963年。1965年に開館した施設は、その後次々と増築を繰り返してきました。やがて、周囲が宅地造成で住宅に変わる中、セミナー・ハウスは多摩丘陵の森になっていきます。

1962年、アルゼンチンから帰国した吉阪隆正は〈有形学〉を提唱し、この設計に取り組みました。また、60年代後半から70年まで、同時に進行したのが、彼の自然観の原点である山小屋、大島水取山、箱根国際観光センターコンペなどの作品でした。

新しい村と森へ、60年の物語から〈不連続統一〉実践の現場を辿ります。



樋口裕康

建築士、パタパタ絵巻師。1965年早稲田大学理工学部建築学科修士課程修了。1965年～1971年、吉阪隆正主宰のU研究室。1971年に富田玲子や、大竹康市、重村力、有村桂子らと象設計集団を設立。今帰仁村基本構想、名護市基本構想・基本計画策定、今帰仁村中央公民館で芸術選奨文部大臣賞。名護市庁舎で日本建築学会賞。沖縄の地域計画で都市計画学会賞。1990年事務所を十勝に移し、全国各地で学校、公共施設、福祉施設をはじめとする地域に根差した建築を進める。台湾宜蘭縣冬山河河川計画、縣庁舎、縣議会。

齊藤祐子

建築士。1977年早稲田大学理工学部建築学科卒業。1977～84年、吉阪隆正主宰のU研究室。1985年七月工房、1989年空間工房101を共同で設立、1995年サイト（SITE）代表。作品に益子・塵庵、東中野PAO、大学セミナーハウス「やまゆり」、浦和実業学園UJHALLほか。著書は『吉阪隆正の方法—浦邸1956』『建築のしくみ』『集まって住む終の住処』ほか。〈ぐるぐるつくる大学セミナー・ハウス〉実行委員。〈アルキテクト事務局〉として、吉阪隆正の関連書籍の編集、展覧会の企画協力。

